

## 令和5年度入学式学長式辞（2023.04.06）

新入生の皆さん。入学おめでとうございます。鳥取大学を代表しまして、皆さんの入学をこころよりお祝いし歓迎いたします。3年前に始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックの出口がやっと見えてきた一方で、ロシアによるウクライナ侵攻には中々出口が見えてきません。そんな中でも鳥取では、いつもと同じように冬が終わり、木々の芽吹きとともに桜も咲き春が訪れました。新入生が一堂に会しての入学式が4年ぶりにこのように挙行できますことを、鳥取大学として本当に嬉しく思っております。

鳥取大学は昭和24年に、鳥取師範学校、鳥取農林専門学校、米子医科大学などを前身校として新制国立大学としてスタートし、来年、令和6年には75周年を迎えます。前身校の時代から現在まで、実学を重視して、地域社会が直面する課題に果敢に取り組み、人びとの生活の向上と産業の育成を通して、地域に貢献して参りました。同時に、地域の課題解決を探求する中から、人類にとって役に立つ、普遍的な知識を見出して、広く世界に発信し、学問の発展はもとより世界の平和や福祉にも大きく寄与してきました。鳥取大学の基本理念「知と実践の融合」、すなわち、実践を通して知識を深め理論を身につけ、地域から国際社会まで広く社会に貢献するという理念は、こういった鳥取大学の歴史の中から生まれ、これから、皆さんはこの理念のもとで学生生活を送ることになります。

さて、新たな生活を始める皆さんに興味深い話を紹介します。ムカデ、足の沢山ある虫ですが、ムカデの意識についての物語が世界各地にあるそうです。例えば、ヒキガエルとムカデの話では、ヒキガエルがムカデに向かって「右の3番目の足を動かした後は、左の何番目の足を動かすのか？」と、質問するとムカデは考え込んで歩けなくなってしまいます。また、ムカデを狙っているクモの話では、「どの足から歩くのか？」とクモから質問されて混乱して動けなくなって食べられてしまいます。このように、意識していないと普通に過ごしていることが、意識することで普通に過ごせなくなることがあります。ムカデは意識することで動けなくなって困ってしまいましたが、人間にとって意識することで立ち止まることは決して悪いことではなく、考えを深めるためにはとても重要なことであります。特に学問の世界では同様なことが言えます。常日頃は意識していなかった、見逃していた事柄でも、それらが学問の対象になった途端に意識がそこに向かい、日常が止まり、新たな思考が始まります。また、研究活動は、まさに非日常そのものです。普段の生活では意識しないで適当にやり過ごしていることを、正しい結論を得るために、意識して一度立ち止まり、厳密に考え、正確に行動しなければなりません。例えば、ロケットを月に行かせようと思ったら、ロケットを構成する一つ一つの部品の完成度は100点を目指さなければなりませんし、打ち上げや飛行のステップの精度も100点でなければなりません。私たちの生活は普通60点70点の事柄が積み重なって成り立っていますが、こういった学問の世界、研究の世界では遙かに高い正確性や厳

密性が求められます。在学中には、学問の世界、研究の世界を、意識して立ち止まることで、十分に味わってみてください。

「エデュケーション 大学は私の人生を変えた」というタラ・ウェストバーが書いた本が最近、話題となりました。著者はアメリカのアイダホ州で7人兄弟の末っ子として生まれ、10代半ばまで学校に通わず、医療機関で診察を受けた経験もなく、父の仕事を手伝いながら育ちました。それがタラにとっては「意識しない日常」でした。しかし、独学で大学入学資格試験に合格し、17歳で初めて学校というものに通いはじめ、意識し立ち止まることができ、知識を増やし、思考力を高め、それまで身近に感じられなかった社会への参加も果たします。そのおかげで、それまでの自分の人生が理解でき、自分の家族の状況を認識することができて、自分というものを取り戻し、最終的には歴史学の博士号も取得します。この本が私たちに教えているのは、大学という場で意識し立ち止まり、知識を深め、自分で考える力を鍛えれば、自分や自分の周囲への理解が進み、新たな道ができ、人生が広がるということでもあります。

大学での学びというのは、皆さんが、どのような状況であっても社会で生きていける力を身につけるためのものでもあります。大学は高校とは違います。高校では教わった知識・技能を覚えて、テストで良い成績を取ること、テストでは、ミスをできるだけ防ぐことが要求されていました。大学では、知識・技能を先生から教わるだけではなく、教わった知識・技能に対して、皆さんが疑問や関心をもったことについては、人に聞き、自分で調べ、考えることで、知識・技能をさらに広げ深める。また、教わった知識・技能を実際に現場で使ってみる。その結果、うまくいなくても、逃げずに原因を探り、やり方を変えて、再びチャレンジする。こういった一連の行動が、将来に続く「積極的に学び続け、学びを实践する姿勢」につながります。もう一つは、様々な視点、観点から考えることのできる、「柔軟な考え方」を身に付けることです。これは常日頃から自分の好き嫌いによらず、物事を批判的、客観的に見るようにすることで身につきます。さらに、自分にとって都合が、良い悪いにかかわらず、すべての事実きちんと向き合い、評価し、事実だけに基づいて冷静に判断する力、すなわち「正しい判断力」も磨いてください。これらは、皆さんが将来社会において必ず求められるものであります。

一方、研究においては、事実に対しては常に誠実に、正直に向き合うことです。これが研究に携わるものの正しい姿勢です。自分の考えに合わない事実を、わざと無視したり、あるいは歪曲したりしては決して正しい結論には至りません。まずは、正しい方法で情報やデータを集めること、その情報やデータに真摯に向き合い、その意味することを誠実に、正直に読み取ることです。事実から目をそらしてはいけません。改変、改ざんなどは、もってのほかです。大学院でこれから研究に従事する皆さん、近い将来、卒業論文研究に取り組む皆さんには、ぜひこのことを強く心に留めておいてください。

人生100年時代を迎えました、大学・大学院を卒業修了した後で、仕事以外の生活・人生があることも決して忘れてはいけません。社会人として人間性を重視した、こころ豊かな生活を送ることが大事になります。そのためには、学生時代から、専門分野の学びだけでなく、それ以外についても幅広く学ぶことで教養を高め、読書をすることで色々な世界観、人生観を身につけ、また、音楽や絵画、演劇など文化芸術にも触れることで感性を磨き、生活を豊かにし、人生を豊にする術も身につけておいて下さい。

これから鳥取大学で過ごす時間が、皆さんにとって自分を磨き、自分を高める、有意義な時間となることを強く願っています。そして、鳥取大学の教職員一同、そういった皆さんを精一杯サポートいたします。新入生の皆さんの、鳥取大学でのこれからの成長をこころより願って、私のお祝いのことばとします。

令和5年4月6日

鳥取大学長 中島廣光